



昭和十三年前半期總目錄 (頁第六十四號)

二月一六月

内閣

- ▽事變下の新年に際して……………六四號
- ▽事變と恩給扶助料……………六五
- ▽政府の所信……………六七
- ▽第七十三回帝國議會に於ける近衛内閣總理大臣演説……………六七
- ▽憲法發布五十年祝賀式典に就いて……………七〇
- ▽國家總動員法案に就いて……………七一
- ▽支那事變と滿洲國……………七二
- ▽第七十三回帝國議會の概観……………七三
- ▽恩給金庫……………七六
- ▽近衛内閣總理大臣訓示……………七七
- ▽ソ聯邦第三次五ヶ年計畫の全貌……………八二
- ▽物資動員と國民生活……………八六
- ▽宮内省……………八九
- ▽宮中の新年……………六四
- ▽外務省……………六四
- ▽昭和十三年の國際政局回顧……………六四、六五
- ▽北京新政府の首腦部……………六六
- ▽第七十三回帝國議會に於ける廣田外務大臣演説……………六七

内務省

- ▽青島を語る……………六八
- ▽第一回最高ソワイエトの經過……………六九
- ▽上海の租界……………七〇
- ▽獨逸の國防軍改革とその影響……………七一
- ▽パナマ運河の話……………七二
- ▽不法ソ聯の壓迫……………七三
- ▽廣東の近況……………七四
- ▽伊太利のファシズム……………七五
- ▽獨逸併合成る……………七六
- ▽ソ聯裁判の内情……………七六
- ▽中支新政權の誕生……………七七
- ▽新疆の危機……………七八
- ▽獨逸合併後の歐洲政局……………七八
- ▽國民黨の臨時全國代表大會……………七九
- ▽英伊協定の反響……………八〇
- ▽支那海關日英取極の意義……………八一
- ▽チエッコ・スロヴァキアの少數民族問題……………八二
- ▽南支の良港厦門を語る……………八三
- ▽徐州陥落の反響……………八四
- ▽ブラジルの新移民法……………八五
- ▽鄭州の經濟的地位……………八六
- ▽廣東擾攘の波紋……………八八
- ▽人民戦線運動の本體……………八九

▽時局の推移と國民精神總動員運動……………六九  
▽新政權と在留華僑……………七六  
▽自治制發布五十周年に際して……………七八  
▽自治制制定功勞者の話……………七八

大 議 省

▽第七十三回帝國議會に於ける賀屋大蔵大臣演説……………六七  
▽非變下の本年度豫算……………六八  
▽増稅並びに稅法改正……………七八  
▽庶民金庫の話……………七九  
▽樟腦の話……………八〇  
▽銃後の國民貯蓄……………八一  
▽貯蓄報國の途……………八二  
▽輝く貯金村物語……………八七  
▽貯蓄組合はかうしてつくる……………八七  
▽歐洲大戰と列國の貯蓄運動……………八七  
▽日露戰爭當時の貯蓄組合……………八八

陸 軍 省

▽非變平歲の回顧……………六四  
▽濟南を攻略す……………六五  
▽皇威山東を掩ふ……………六六  
▽全歩兵の二年在營制と  
幹部隊補生制度の改正案に就いて……………六七  
▽遊撃戰術……………六七

海 軍 省

▽徐州會戰の進展……………八五  
▽戰況西方に發展す……………八六  
▽開封城の陥落……………八七  
▽徐州會戰參加者の手記……………八七  
▽敵、黄河を決潰す……………八八  
▽新興艦隊を語る……………八九  
▽一舉濟南を攻略す……………八九

文 部 省

▽長江三千渾……………六四  
▽支那空軍の再建を粉砕す……………六五  
▽軍艦旗幟に懸る……………六六  
▽長期抗戰の動脈を断つ……………六七  
▽第七十三回帝國議會に於ける米内海軍大臣演説……………六七  
▽寒風を衝き宜昌を襲ふ……………六八  
▽援支のソ聯機を語る……………六九  
▽芝罘を占據す……………七〇  
▽建艦通報問題と帝國海軍軍備……………七一  
▽長沙に初撃を加ふ……………七二  
▽列國海軍の情勢(附圖表)……………七三  
▽海空軍の戰果輝く……………七三  
▽海軍陸戰隊の話(附圖表)……………七四  
▽敵都空襲の體験(附圖表)……………七五  
▽長江沿岸の掃蕩……………七六  
▽支那の海軍(附圖表)……………七七

▽第七十三回帝國議會に於ける杉山陸軍大臣演説……………六七  
▽軍旗の話……………六八  
▽江北戰線淮河以南の肅清……………六九  
▽無言の戰友軍馬を語る……………七〇  
▽敵大軍を黄河に墜す……………七一  
▽京漢戰線黄河畔に達す……………七二  
▽陸軍記念日に當りて……………七三  
▽山西省の敵軍潰滅近し……………七三  
▽北支五省を悉く掌握す……………七四  
▽討匪す、む滿洲國……………七四  
▽我が砲火驍海線を制壓す……………七五  
▽武器なき戰士、宜擯班……………七六  
▽津浦戰線の進展……………七六  
▽山東南部の戰況……………七七  
▽台兒莊落つ……………七八  
▽靖國神社臨時大祭を迎へて……………七九  
▽山西の殘敵掃蕩進む……………七九  
▽共産軍の本據を覆滅す……………八〇  
▽殘敵の掃蕩續く……………八一  
▽ソ聯邦の軍備擴張……………八二  
▽蒙古高原の掃蕩戰……………八二  
▽收斂支那のデマ戰術……………八三  
▽江北の戰況進展す……………八三  
▽徐州大包圍戰……………八四  
▽殲滅戰とは……………八五

▽潜水艇の由来(附圖表)……………七八  
▽正確無比の爆撃……………八〇  
▽帝國海軍の活動……………八一  
▽一舉五十一機を撃墜す……………八二  
▽抗日の根據厦門を衝く……………八三  
▽事變下に海軍記念日を迎へて……………八四  
▽徐州戰と海軍の活動……………八五  
▽廣東の恐怖……………八六  
▽要衝安慶を衝く……………八八  
▽長江作戦進展す……………八九

司 法 省

▽事變と戸籍……………六五  
▽國力の充實と少年保護……………七八  
▽時局と轉向者の活動……………八六

文 部 省

▽青年學校教育の義務制……………六七  
▽日本精神の昂揚……………六九  
▽ドイツ、イタリーの青少年運動……………六九  
▽國民とステープルファイバー……………七四  
▽國民精神總動員の立場から(國民精神總動員の立場から)……………七四  
▽八紘一字の精神……………七六  
▽日獨青少年團の交隣……………八四

編輯部報情閣内

# 週報

號四十六第

昭和十三年一月五日 日曜 第四十六號

## 宮中の新年 (宮内省)

事變下の新年に際して (近衛内閣總理大臣)

事變半歳の回顧 (陸軍省新聞班)

長江三千哩 (海軍省海軍軍事普及部)

昭和十二年の國際政局回顧 (外務省情報部)

附録 支那事變戰鬥經過要圖

日五月一年三十和昭

めくれず

露光量違いにより重複撮影

農林省	農地調整法案に就いて……………七〇
	農業保險制度……………七七
	農村に展開する勤勞奉仕運動……………八九
商工省	國民とステール・ファイバー……………七四
	(一般使用者のために)
	事變下の商工行政……………八〇
	石油の切符制度……………八〇
	日本萬國博覽會について……………八二
	産金國策について……………八三
	有價証券業取締法の解説……………八五
	物價對策……………八八
逓信省	軍事郵便に就いて……………六五
	大電力放送……………六六
	航空機製造事業法案に就いて……………七五
	電力管理諸法の解説……………八一
	新記録の郵便貯金……………八七
鐵道省	國策と鐵道運貨政策……………七二
支那の鐵道……………八四	
拓務省	大陸開拓の戦士滿洲青年移民……………八一
厚生省	厚生省の新設……………六五
	社會事業法案に就いて……………七二
	國民融和週間に就いて……………七三
	簡易保險金額制限の引上……………七四
	勞働爭議最近の趨勢……………七七
	實現する國營職業紹介所……………七九
	國民健康保險法の解説……………八〇
	銃後の健康報國……………八三
	産業勞働者と健康保險……………八六
朝鮮總督府	朝鮮の國境警備……………七一
臺灣總督府	護りは固し銃後の臺灣……………七三
其の他	最近公布の法令……………六五、六七、六九、七〇、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八八

めくれず

露光量違いにより重複撮影

編輯部報情閣内

# 週報

第六十四號

昭和十一年十一月一日發行 (毎週一、四、六日發行)

## 宮中の新年 (宮内省)

### 事變下の新年に際して (近衛内閣總理大臣)

### 事變半歳の回顧 (陸軍省新聞班 海軍省海軍軍事普及部)

### 長江三千裡 (海軍省海軍軍事普及部)

—(國際時事解説)—

### 昭和十二年の國際政局回顧 (外務省情報部)

附録

### 支那事變戰鬥經過要圖

昭和十一年一月五日

#### 農林省

● 農林省の業務概況  
● 農林省の業務概況

#### 逓信省

● 逓信省の業務概況  
● 逓信省の業務概況

#### 厚生省

● 厚生省の業務概況  
● 厚生省の業務概況

#### 拓務省

● 拓務省の業務概況  
● 拓務省の業務概況

#### 鐵道省

● 鐵道省の業務概況  
● 鐵道省の業務概況

#### 朝鮮總督府

● 朝鮮總督府の業務概況  
● 朝鮮總督府の業務概況

#### 支那の他

● 支那の他の業務概況  
● 支那の他の業務概況

王錢

露光量違いにより重複撮影



國威宣揚

員動總神精民國

週報 第六十四號

宮中の新年……………宮内省(一)

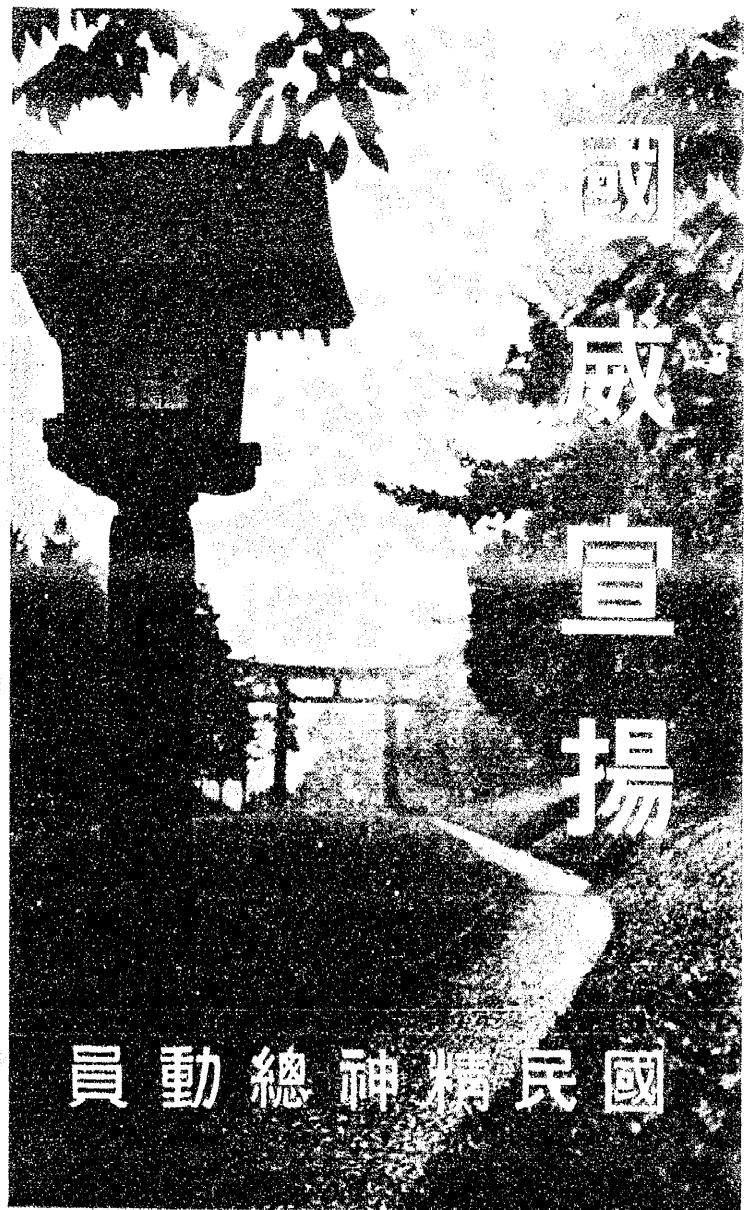
事變下の新年に際して……………逓信内閣總理大臣(一)

事變半歳の回顧……………陸軍省(新聞班) (一)

長江三千里……………海軍省海軍軍事普及部(一)

昭和十一年の國際政局回顧……………外務省情報部(四)

露光量違いにより重複撮影



週報 第六十四號

宮中の新年……………宮内省……………(一)

事變下の新年に際して……………近衛内閣總理大臣……………(二)

事變半歳の回顧……………陸軍省新聞班……………(三)

長江三千涇……………海軍省海軍軍事普及部……………(四)

昭和十一年の國際政局回顧……………外務省情報部……………(五)

刊行の趣旨

政府の行はうとする政策の内容や意圖を廣く一般國民に傳へて其の正しい理解を求め、公正な輿論の聲を聞き、又法令の趣旨や内容の普及を圖り、其の他政府の各種機關に依つて得られる内外の情勢、經濟學術技藝等に關する資料を公表して、政府と一般國民との接觸を緊密にし公明な政治の遂行に寄與しようとするものである。

最近號主要目次

- 第五十九號
  - ▽滿洲國に於ける治外法權の撤廢及滿鐵附屬地行政權の移讓
  - ▽時局と農村の使命
  - ▽戦争と鐵道
  - ▽大本營設置せらる
  - ▽黄浦江の水路開く
  - ▽日獨伊防共協定記念國民大會に於ける近衛内閣總理大臣祝辭
- 第六十號
  - ▽神速南京に迫る
  - ▽水路前線に通過
  - ▽司法保護事業制度化の急務
  - ▽崩壊し行く國民政府
- 第六十一號
  - ▽列國と放送事業
  - ▽南京の攻圍成る
  - ▽空襲全支を掩ふ
  - ▽割増金附貯蓄債券の賣出し
- 第六十二號
  - ▽西班牙問題の終局と英獨英佛會談の内容
  - ▽南京陥落に際して
  - ▽五十億を超えた預金部資金
  - ▽首都南京陥落す
  - ▽アルミニウム工業の發展
  - ▽ソ聯邦の總選挙
- 第六十三號
  - ▽歳旦祭元始祭の意義
  - ▽時局下の新年奉祝
  - ▽電力國策の全貌
  - ▽南京攻略後の肅清
  - ▽燎たる南京入城
  - ▽人口一億に達す
  - ▽イタリ―脱退と聯盟

宮中の新年

宮内省

昭和十三年の新春を迎へるに當つて、國運いやが上にも隆盛に、國基いよく搖ぎなき聖代の新年を迎ふることは誠に同慶の至りに堪へないところでありませう。

天皇陛下に於かせられましては、本年寶算三十八を迎へさせられ、天機いよ麗はしく、皇后陛下・皇太后陛下に於かせられましては御機嫌ますます麗はしく、皇太子殿下にも御六歳の春を迎へさせ給ひ、義宮殿下・孝宮殿下・順宮殿下御共々御健かに御生育あらせられ、竹の關生のいや榮えゆく御有様を拜して、感激の一入新たるを覺えるのであります。

殊に昨年七月、支那事變發生以來、天皇陛下には深く時局を御軫念あらせられ、御政務に御軍務に益々御多端を加へさせられ、第七十二回帝國議會開院式に當つては優渥なる勅語を賜はり、其の後北支及び内蒙方面に於ける作戰中の陸軍將兵に對し、又上海

方面陸軍將兵並に聯合隊司令長官、支那方面艦隊司令長官に對して、夫々勅語を賜ひ、更に時局の重大なるに鑑みさせ給ひて、宮中に大本營を設置あらせられ、宵衣旰食の御精勵は唯々恐懼に堪へないところでありませう。

皇后陛下に於かせられましては、曩に出征及び應召の軍人遺家族の爲に、畏くも内帑の資を御下賜あらせられ、有難き御歌を下し賜はりましたことは既に本誌に於て述べた通りであります。更に近くは戦死又は殉職等の陸海軍將兵其の他の者に對しまして、やすらかにねむれとそふもふ君のため

いのちさ、けしきすらすらをのとも

と御詠み遊ばされ、併せて御紋菓をも御下賜あらせられたのであります。

又戦場の第一線にあつて、名譽の戦傷を蒙つた傷病者の身の上に深く御同情あらせられまして、陸海軍病院に行啓、親しく御慈愛のこもれる御慰問を賜はりましたことは未だ感激の新たなるところであります。

皇太后陛下に於かせられまして、事變以來、出征軍人について一入御心を傾けさせ給ひ、風寒き朝、雨滋き夕、御心を戦場の勇士の上に注がせ給うて御懇ろなる御下賜品

を賜はりましたことは、洵に恐れ多い極みであります。

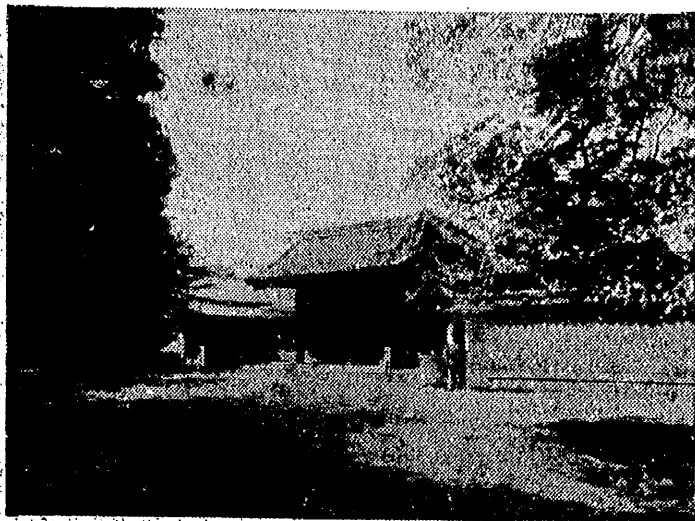
以上、皇室の御近狀を申上りましたが、此の機會に於て、更に宮中に於ける新年の概要を申述べ、時局下に於ける新年の意義を明かに致したいと思ひます。

先づ年頭の祭儀の初めとも申すべきは四方拜であります。天皇陛下には元日晨旦に當つて、曉の空未だ明けやらぬ朝まだき、畏くも御潔齋の上、立纏の御冠・黄櫨染の御袍を召させられて、神嘉殿の前庭に出御、神宮を初として、四方神祇及び山陵を御拜あらせられ、天下泰平、萬民安寧を祈らせ給ふのであります。

ついで、陛下には、宮中三殿に出御、賢所・皇靈殿・神殿に順次御拜あらせられます。これは歳の首に當つての小祭で、歳旦祭と申します。

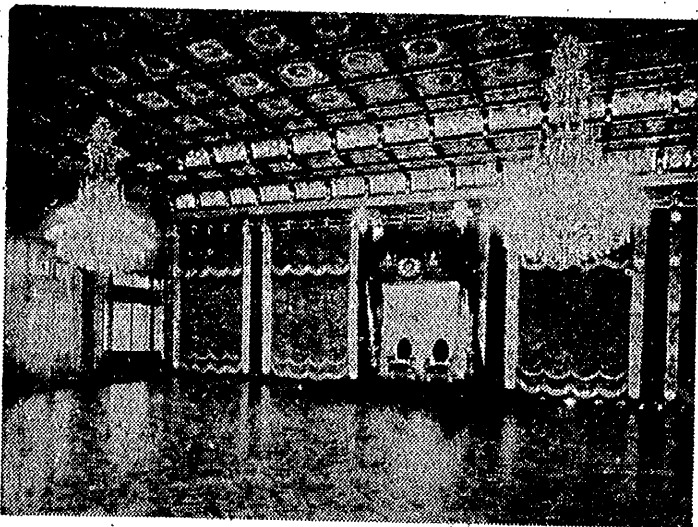
四方拜・歳旦祭を終へさせ給うた後、陛下には一旦還御、御正装に御召換の上、午前八時には晴御膳を閉食されるのであります。此の晴御膳と申上るのは一月一日、二日、三日に互つて行はせられる御儀でありまして、三日とも風風閣に出御の上、供饌を閉食されるのであります。





賢所正門

晴御膳を済ませられた後、新年朝賀の儀が行はせられます。此の朝賀と申しますのは、皇族以下文武百官が陛下に對し奉つて、新年の御祝詞を申上るのであります。皇室儀制令第二條に「新年朝賀ノ式ハ一月一日及三日宮中ニ於テ之ヲ行フ」とあるに據るのであります。  
朝賀の中、親しく陛下に拜謁を賜はつて、新年を賀し奉る御儀を拜賀と申し、拜謁のことなくして單に宮中に參内、所定の御帳に署名して新年の賀意を表し奉るのを參賀と申します。さて拜賀は一月一日に五回、一月二日に



正殿

二回、兩日を合しますと實に七回に互つて行はせ給ふのであります。  
第一回の拜賀は午前十時に行はれるのであります。天皇・皇后兩陛下には鳳凰間に御出、各皇族・王族・公族の御順に拜賀を受けさせられるのであります。年の始に當つて、御正装の天皇陛下、御大禮服の皇后陛下を初めて拜し奉る賀儀で、莊嚴なる鳳凰間に儼たる兩陛下の御姿を拜し奉るは眞に畏き極みであります。  
第二回は午前十時十分、天皇・皇后兩陛下には正殿に出御、大勳位・内閣總理大臣以下公爵・從一位・勳二等以

上の者竝に其の夫人・勳一等外國人・同夫人の拜賀を受けさせられるのであります。第三回は午前十一時、正殿に於て高等官一等以下勅任待遇以上竝に其の夫人・神佛各宗派管長・勅任扱雇外國人・同夫人に對して、一齊に拜賀を仰付られ、第四回は午前十一時五分西溜間に於て、宮内奏任官・同待遇に拜賀を仰付られるのであります。かくして、兩陛下には一旦入御の上、午後一時三十分、御五度出御、正殿に於て外國交際官、同夫人に謁を賜はるのであります。

更に二日は午前十時、正殿に於て、伯爵以下の有資格者に、同十一時、千種間・豊明殿・南溜間・東溜間・西溜間に於て貴衆兩院議員以下の有資格者に夫々拜賀を仰付られ、茲に二日間に亘る拜賀の儀を終へさせ給ふのであります。

次に參賀の儀は二日の午後一時から同四時までに正七位以下從八位以上、功六級・功七級・勳七等・勳八等・奏任待遇の諸員が參内して、設けの參賀簿に署名いたし、判任官・同待遇者は其の所屬廳に參賀することになつて居るのであります。

一月三日には元始祭を行はせられます。元始祭は年頭に於ける大祭でありまして、皇

室祭祀令第八條に「大祭ニハ天皇皇族及官僚ヲ率テ親ラ祭典ヲ行フ」とあるやうに、天皇陛下には畏くも皇族・王族・公族及び文武百官を率ゐさせられて、親しく御祭典を行はせ給ふのであります。此の大祭は天日嗣の本始を祝して、歳首に神祇を崇めさせ給ふの御儀であります。

陛下には此の日、立櫻の御冠・黄楹染の御袍をも召し遊ばされ、賢所へ出御、御拜禮の後、御告文を奏せられ、次で皇靈殿・神殿にも御拜禮の後、御告文を奏せられます。皇后陛下・皇太后陛下にも相ついで御拜遊はされるのであります。

一月四日には、政始の儀を執り行はせられますが此の日、内閣總理大臣を始め各國務大臣・宮内大臣・樞密院議長は通常服・通常禮裝を著用して參内、東二間に參集、定刻、天皇陛下には御通常禮裝を召されて東一ノ間に御出御、萬機を聞召さるゝに先立つて、先づ内閣總理大臣より神宮の事を奏するのであります。神宮の事とは前年十二月まで伊勢の神宮に於ての諸祭典が總て滞りなく行はせられた旨を奏するのであります。總理大臣は續いて各廳の事を奏し、次で宮内大臣は皇室の事を奏するのであります。此

の御儀は神事を先にし他事を後にすといふ深い思召からでありまして、畏くも明治天皇の御製に「神風の伊勢の宮居の事をまづ今年も物の始にぞきく」と仰せられた御趣旨に基くものと拜察し奉る次第であります。

新年宴會は一月五日、宮中に於て行はせられます。此の御宴は一月一日、同二日の朝賀と共に新年祝日としての一體を爲すものでありまして、元來ならば朝賀に引續いて行はせらるべき性質のものでありますが三日は元始祭、四日は政始とそれ／＼諸儀が續きますので、五日を新年宴會と定められたものと拜察するのであります。

天皇陛下には御正装を召され、皇族以下供奉員を随へさせられて、牡丹間を通過、豊明殿に出御遊ばされるのでありますが、是より先き牡丹間の伺候の大勲位・内閣總理大臣以下前官禮遇以上の者並に外國大公使に謁を賜はるのであります。かくて君が代の奉奏諸員の最敬禮の裡に豊明殿の御座に著御、畏くも優渥なる勅語を賜はり、ついで内閣總理大臣並に首席大使は謹で之に奉答し奉つて、御宴にうつるのであります。皇族・王族・公族を始め奉り各國友邦の使臣、文武高官が和氣縉々として、一堂に會し、君臣偕和、友邦

善隣の光景は誠に泰平を謳歌する聖代の姿を拜するの感があるのであります。然るに本年は時局に鑑み、深く戦場の將兵を思召さるゝの大御心より終に御宴會は行はせられざる旨、仰出されたのであります。

一月八日には陸軍始觀兵式が行はせられます。陛下には御正装を召され、第三公式の御馬車鹵簿を以て親臨、御閱兵遊ばされるのであります。時局下の本年は特に御軍裝を召されて第三公式の自動車鹵簿を以て宮城御出門、代々木練兵場に向はせられ、直ちに便殿に入御の後、御乗馬に召され、皇族を始め奉り數多の供奉員を随へさせられて、式場に整列の貔貅を親しく御閱兵、次で諸兵指揮官の指揮、軍樂隊の奏する行進曲と共に勇壯なる分列式を御親閱、威容燦たる皇軍の精銳を櫛はせられ、再び便殿に御小憩の後、還御あらせられるのであります。

以上陳べました外に、講書始ノ儀と歌會始ノ儀とがあります。講書始ノ儀は宮中恒例の御行事の一つでありまして、天皇陛下には御通常禮裝、皇后陛下には御通常服を

召させられ、鳳凰間に出御、學者の進講を聞召さるゝの儀で、御進講者は國書・漢書・洋書に互つて各領學が年々銓衡せられて御進講申上るのでありまして、御儀は午前十時を以て始められ、正午近く終了せらるゝを例として居ります。此の御儀は一に學事尊重の敬慮に發して居るものと存するのであります。

歌會始ノ儀も恒例御行事の一つでありまして、陛下より勅題を賜はつて、皇族以下臣民に至るまで詠進を許されて居るのでありまして、皇族を始め奉り諸大官の詠進も一臣民の預選歌も當日御前に於て、ひとしく披講せられるのであります。かくる光榮は全く他に類例の無いことでありまして、廣く臣下の感想を聽召されるの大御心とも拜します。君民一體の御精神のあらはれとも拜されて恐懼に堪へないのであります。

此の日、天皇陛下には御通常禮裝、皇后陛下には御通常服を召されて鳳凰間に出御、讀師以下諸員參進して本位につき、先づ臣下の預選歌より皇族各殿下の御詠進に及び、次に 皇太后陛下の御歌、皇后陛下の御歌を奉講し、次に御製を奉講して御儀を終了致すのであります。

本年は「神苑朝」と御題を仰出され、此の御歌を通じて忠勇なる國民の覺悟、潑刺た

る元氣、熱烈なる感情等、時局を反映した眞の赤誠が全國民から詠進されるであらうと思ひます。

かくの如く宮中の新年は年の始めを壽ぐ中にも、敬神崇祖の御精神を基として、文武兩全、國民一體の意義を存して居る御でありまして、神代より承け継ぎし、み國ぶりを目のあたり今に拜し奉る御代の姿こそ、尊くも亦畏き極みであります。

仰いで悠久三千年の歴史を偲び、俯して萬邦無比の國體を思ふの時、油然而して起るは實に忠君愛國の至情であります。此の至情のあらはるゝところ即ち皇威の宣揚となり、一死盡忠の至誠となるのであります。斯の時、斯の國に生を享けた吾々國民は、「御民われ生ける驗あり」の感を一層深く感ずるのであります。

茲に戰捷の新春を迎ふるに當つて、謹で聖壽の無窮を祝し奉り、併せて皇運の彌榮を祈る次第であります。

## 事變下の新年に際して

近衛内閣總理大臣

昭和十三年初頭に當り國民諸君と共に、謹で聖壽の萬歳と皇室の御繁榮を壽ぎ奉る。東亞の一角に起つた事件が、はしなくも日支兩國を悲しむべき闘争に捲き込んだま、越年した。輝しい皇軍の勝利に、今更ながら日本に生を享けた恩寵を痛感すると共に、胸に擴がる感慨はわれ／＼の直面する時局の重大さである。支那問題が今や根本的解決の途上にあることをそのまゝ映して、此の新しき一年は世界歴史に於ける日本の地位に一大進展を劃すべきことが豫測されるのである。私は國民諸君と共に此の際、時局に對し自覺を新にしたいと思ふ。

本來ならば東洋民族興隆の爲め相提携すべき日支兩國が、表面の親善はいざ知らず、眞實は最も陰鬱なる關係にあつたことは既に多年に亙る。凡ての偏見と感情とを去つて公平に事態を観察する者には、それが支那に於ける遠く且つ深い國際關係と支那自身の態度とに原因したことは明瞭である。十九世紀の末葉から西洋諸國の權益が、如何なる

方法を以て支那に植ゑつけられたか。そして支那の民族意識が成長するにつれ、それが如何に排外思想となつてはけ口を求めたか。最後に遅れて、然し驚嘆すべき力を以て日本の經濟的的發展が始まつた時、支那が如何にその排外政策の焦點を日本に向けたか。その間の歴史は今茲に喋々を要しない。然もそこに、今日の支那問題の根幹がある。

蔣介石政權による支那統一と所謂經濟「建設」の成果とは、われ／＼之を認むるに吝でない。然しながら彼等はこの新支那建設の指導精神を抗日に求むることによつて、致命的な誤謬を冒したのであつて、かゝる基礎の上に築かれた支那國家は本質的に不純なものであることを、われ／＼は斷ずるに憚らない。彼等は此の誤謬に對して、最も痛烈なる實物教訓を滿洲事變から受けた筈である。然るに彼等は却てこの事實を逆用して、國民意識を抗日に教育し煽動するに至つては、その迷妄救ふべからざるものがある。自ら求めた武力抗日が如何なる結果を招くかは、支那自身今や切實に味ひつゝある。近代國家建設の國民的希望が、物心兩面に互つて、無慘に潰え去らんとする今日、支那具眼の士の反省には深刻なものがあるを信じて疑はない。

歴史は既に轉換の第一頁をくり擴げたのである。抗日と、共產黨の傀儡化せる支那は、今や凡て抹殺さるべき運命にあり、その後に来るべきものは、東洋民族本然の姿に立ち還つた近代國家支那でなければならぬ。蓋し、日本の存立も、支那の幸福も、外國の利益も、かくて初めて安泰たり得るのである。日本はかくの如き支那の建設こそ滿腔の協力を致さんとするものであり、又日本の求むる支那問題解決の究極目的は、實に之を措いて他には絶對にないのである。

今日の日本は世界的存在であり、その行動は世界的責任を持つものである。逸脱せる支那を本來の支那に還らしめんとするの、是れ一に東亞の進歩と安定とに牢固たる基礎を與へ、かゝる安定的東亞を以て世界の平和に寄與せんとする動機に外ならない。又之以外に日本の安全保障の途はないのである。遠く歐洲の友邦と提携したのも、世界共通の敵コミンテルンの脅威の前に、人類の高貴なる精神と眞の秩序とを防衛せんとするに外ならない。更に世界大戦後世界平和の基調として一應は受容れられた現狀維持の原則が幾多の矛盾と相剋とを生んで機能を失はんとする今日、現實に則したる新時代の平和組織を建設する任務は、自らわれゝ進歩的國民の肩に懸る。

凡ては建設の途上にある。支那の混迷と、それを環る複雑なる國際關係から来る重層とを想へば、この建設の前途には、尋常一様でない困難が横はるものと覺悟せねばならぬ。國家の對外政策と國內生活とは必然的に相關々係にある。今日日本の當面せる國際的難關が未曾有のものであることは、直ちに國內的にも問題が山積してゐることを意味する。此の國家的難局は全國民に、全國民の全機能を國家的目的の爲めに動員して、以て巨大なる戰闘準備をなすことを要求するのである。去る十二月二十六日第七十三回帝國議會開院式に當つて賜はつた御勅語の中に、

陛下は

朕カ將兵ハ每戰捷ヲ奏シ大イニ勇武ヲ中外ニ著ハシテ朕カ銃後ノ臣民亦克ク協力一致シテ時艱ニ當レリ

朕ハ舉國臣民ノ忠誠ニ倚信シ速ニ終局ノ目的ヲ達セムコトヲ期ス

と特に仰せられたのである。拜して寔に恐懼感激に堪へぬ次第である。われゝは自己の使命に對する確信を新にし、環境に對する認識を正確にして、聖旨に副ひ奉る様努力せねばならぬ。

# 事變半歳の回顧

## —事變の發生と經過の概要—

陸軍省新聞班

海軍省海軍軍事普及部

遷都十年の夢を包み、西安事件後救國の英雄となつた蔣介石があつたといふ民國二十六年(昭和十二年)の正月を祝した南京が、昭和十二年十二月十三日に陥落すると誰が豫想し得たであらうか。南京陥落の報傳はるや、全日本の歡喜と興奮は旅行列提灯行列となつて全國に渦を巻いた。萬歳の聲は戰場の第一線にも響けと絶叫された。萬歳の聲の裡に幾多の之に唱和し得ない護國の英靈のあることを想ひつゝ、聖戰半歳の跡を回顧して次に來るべき吾人の指標を明らかにすることが新陽慶祝の年頭最大の關心事であらねばならぬ。

### 一 事變の發端より二十九軍の膺懲戰迄

昭和十二年七月七日夜に於ける蘆溝橋事件は今大支那事變直接の導火線となつた。我軍は東亞の平和日支提携の大局的見地より、現地解決、不擴大方針の下に

飽く迄和平解決の態度を以て、告ぐるに公正なる抗議を以てし求むるに彼が冷靜なる反省を以てしたが、彼は爾後益々挑戰的行爲に出で、萬福麟、商震、劉峙の諸軍は保定、滄州に集中、且つ中央軍の北上する等事態急迫せるに鑑み、政府は十一日北支派兵の事に閣議

一決、十五日内地より一部の兵力を派遣すべき旨の陸軍省發表を見るに至つた。帝國海軍は時局の重大性に鑑み、豫て警備上多大の苦心を拂へる、中支及南支方面派遣部隊に對し、事件波及防止上、萬遺算無きを期せしむると共に、一方黙々として所要の準備を整へつつ、滿を持して待機し、其の優勢なる海軍力を以て儼として黃海及支那海を制壓し、一部を以て北支方面の陸軍に協力して活動した。

他方支那駐屯軍は極力不擴大の方針を體し、冀察主腦部と折衝に努め協定具體案の調印を見たが狀況は依然緩和せず、二十五日には張自忠麾下の第三十八師による邸坊事件を見、二十七日には廣安門事件の暴戾を敢てするに至つた。隱忍自軍も限りあり、今や狀況眞に逼迫一瞬の猶豫を許さざるに至つたので、茲に斷乎獨自の行動に出づるに決し、二十八日早曉より北支駐屯軍及川岸部隊を以て北京南側地區の敵を、又酒井、鈴木兩兵團を以て北京地方地區の敵を掃蕩し、三十日遂に敵を良郷以南に擊退した。海軍は、また、其の艦隊の一部を以て、嚴重なる警戒の下に、陸軍部隊數次

の輸送掩護に任じ、宛も湖沼を渡る如く輸送上何等の支障なからしめ、軍の行動を支援すると共に、一部を以て太清方面の砲撃に任じ、陸軍部隊に協力して同方面の支那兵を掃蕩、白河の水路を確保した。

### 二 察哈爾方面

支那駐屯軍は京津地方の第二十九軍を膺懲の後、一部を以て北京の西南五里永定河右岸にある長辛店を占據し、其の他を以て京津地方の敗殘兵を掃蕩して支那側の自省自戒を期待した。然るに支那側は依然梅津、何應欽協定を蹂躪して京漢、津浦兩線方面に益々中央軍を北上せしめ、張家口、綏遠、察哈爾の一帶に於ては土匪原、秦德純協定を無視して大兵を進め、京津地方の側背を脅威し滿洲國境を攪亂せんとする勢を示した。此を以て八月十五日政府は遂に不擴大方針を一擲し積極的に彼を徹底膺懲し其の抗日意識を根絶すべく斷乎奮起するに至つた。

支那中央軍は京漢、津浦兩線より兵力を北上せしめ關海鐵道の北方に約五十萬の兵力を集中、更に北京の西北方にある南口から張家口附近の地區に約八個師の

軍隊を集結し、その一部が南口に頭を出して我軍の側背を脅威するの態勢を示した。別に騎兵を主體とする約四萬の敵は内蒙に侵入し張北は頗る危険の狀態に陥つた。茲に於て我軍は先づ南口附近の敵を驅逐するに決し、八月下旬強襲を以て長城線の難關、居庸關、八達嶺の險を突破した。

別に關東軍の新銳は遠く熱河方面から多倫を経て張家口を衝き、二十七日遂に張家口を占據し敵の背後を遮斷した。敗走の敵は大同東北方の陽高から陽原を経て蔚州の線に陣地を占領したので、我軍は直ちに京綏線及懷來—蔚州方面より急追、九月中旬頃迄に察哈爾省内より敵を一掃した。

三 綏遠山西方面

爾來九月下旬より十月上旬に亙る間に於て、我が部隊は内蒙軍を援けて綏遠附近に蟠踞せる傅作儀の麾下約五、六師の敵軍を攻撃し、十二日之を占據し、第一線は北方より協力した蒙古軍と共に十七日既に包頭を略し、遠く五原及オルドス沙漠を睥睨して北支に對す



宣撫班の施設

る赤化線を遮斷する偉效を収めたのである。

山西方面にあつては、内長城線の堅陣を固守する山西、共産兩軍の十數個師に對し九月二十三、四日頃より作戦を開始し、大營鎮、繁峙方面を突破して山西モロー主義の一角を突き崩し太原に進撃して太原北方の忻口鎮の鐵壁陣に力攻、死闘實に三週間に及んだ。此の間山西の東方難攻不落の娘子關を抜いた部隊と相呼應して十一月三日明治節の佳日に遂に忻口鎮を奪取、敵を南方に急追し太原攻撃に於ては平利裡に開城勸告の餘裕を見せて日本武士道の片鱗を示し、十月九日之を攻略、當面の山西、中央、共産の敵二十五萬を山地内に潰走せしめ虜虜は山西省の山間僻村に迄振ふに至つた。

四 京漢線方面

永定河右岸の敵に對して勇躍敵前渡河し、放膽なる包圍作戦を以て涿州に殲滅的打撃を與へ潰走の敵を急追。九月二十四日、敵が半年の持久を蒙詔した保定を抜き、十月十日又も滹沱河の敵前渡河に要衝石家莊



天津市民大會餘興高足踊り

を攻撃、子牙河を遡航した苦難の水主部隊が側背を脅したのと相呼應して之を攻略、更に鐵路を南進、十一月四日には河南省北部の要地彰德を確保した。爾後線路東側の所謂中間地帯の肅清に多大の辛苦を拂ひつ

つあつたが、概ね治安の回復を見るに至つた。

五 津浦線方面

此の方面に於ては戰場一帯洪水の爲泥濘沼澤と化





北支宜撫班

し、水深胸を浚する困苦を冒し、八月二十二日前進を開始し二十四日靜海、九月四日唐宮屯、十一日には馬廠の險を陥れ、滄州の要衝を保定と同日の二十四日に攻略して尙も急進、十月三日德州を陥れ敗殘兵を掃蕩しつゝ十一月中旬遂に夢にまで見た黄河の流れに日章旗を映し、濟南の空、戰雲頗に濃くなるに至つた。  
思へば北支の戦局は重疊の山岳戦に、羊腸の山徑戦に、濁水漲り泥濘馬腹を浚する平原の攻防に、常に神速輕快の機動作戦に終始した。彈藥も糧食も補給は常に遅れ勝たつたが、鐵蹄の響く所、軍靴の音を聞く所、敵は常に堅陣に立ち直る暇がなかつたのである。

六 上海方面

帝國海軍は事變を中南支に波及せしめざる様最も慎重なる態度を持し警備任務遂行に萬全を期して居つたが、支那側の抗日反日的行爲は日を追うて熾烈となり、第二の通州事件の發生を憂慮せられたると、事變の全支波及さへ豫想せらるゝ事態に立到つた爲政府は遂に長江筋在留邦人を引揚げさせる事に決定、長江

警備の艦艇を以て之等を護送しつゝ、途中支那飛行機及砲臺等の挑戰的示威の中に、儼然其の任務を全うして、八月九日迄に全部の引揚を完了した。一方支那軍は我穩健なる態度に益増長して、上海租界方面に積々正規軍を集中、防禦工事を急ぎ、かくて上海方面の空気が日増に緊迫を加へつゝあつたが、八月九日夜の大山事件は事態愈重大化し、遂に八月十五日夜以來暴戾な支那軍の間斷なき不法攻撃を蒙り、十四日には其の精銳なる飛行機數十機の爆撃を受けるに至つた。茲に於て、隱忍自重、ひたすら事件不擴大の方針に進みつゝあつた帝國海軍も、敢然暴戾支那軍を膺懲するに決意し、十四日を期して疾風迅雷の行動を開始した。即ち陸戦隊は寡兵よく十數倍の敵を撃破して租界の防備に邁進し、航空隊は折柄支那海上に彷徨せる七二〇耗の颯風を突破して、航空戦史上嘗て見ざる洋爆撃を敢行、杭州、慶徳を始め敵の首都南京、南昌等の空軍根據地を襲ふて、敵航空機活動の本拠を封じ、劈頭先づ制空權の獲得に任じ、一方我艦隊は江上及海上に活躍して、堂々陸戦及航空部隊の進出を支援

した。此に於て事變は中支一帯に波及することとなり陸軍部隊の派遣を見るに至つたが、その先頭部隊は八月二十三日未明海軍の緊密果敢な協同動作の下に揚子江下流及吳淞附近に敵前上陸を敢行、江岸に據る頑敵並に上海周邊の優勢な敵に向ひ進撃し、その後逐次到着する部隊を併せ、海軍との適切な協同の下に相拂へて奮戦力闘、八月二十八日には羅店鎮、同三十一日には吳淞鎮、九月一日には獅子林砲臺を占據した。  
上海附近一帯は網の目の如きクリック及無數のトーチカ、掩蓋機關銃座の設備を骨幹とする近代的要塞地帯を形成し、守る支那軍もその訓練に於て又裝備編成に於て優秀を誇る蔣介石直系の所謂中央軍で、その兵力も亦頗る多く、第一線附近丈でも五十萬、後方を合算すれば約八十萬の多きに達する程であつた。  
我軍は此の敵及陣地を一步一步風濺しに撃破しつゝ、前進し、第一線は羅店鎮南方白壁兵營及劉家行東南方王九堡の敵陣に阻止せられたが、九月二十三日此等の陣地を突破するや戰線は約一箇月の膠着状態から俄然轉換して、十月上旬概ね瀏河鎮、嘉定、南翔、大場鎮

及江灣鎮直前の陣地に肉薄した。  
 一方海軍陸戦隊は、終始困難なる市街戦に、不眠不休の奮闘を続け、連日猛烈なる敵の攻撃及空爆の中に敢然租界の防備を全うし、陸軍部隊の進出と歩調を合せて租界周囲の敵を逐次撃破しつゝ、歩一步、堅壘を死守せる敵を撃退した。

又青島及南支方面事態の悪化に鑑み八月月中旬より逐次居留民の引揚を援け警備上萬全を盡したのである。

七 支那沿岸の交通遮断と海軍航空隊の活躍

帝國海軍は、支那の戦闘力を減殺して事態を速かに終熄せしむる爲、八月二十五日から揚子江口以南、福州、厦門、汕頭に互る支那沿岸一帯を、支那の公私船舶に對して其の通航を遮断することに決したが、九月五日には之を全支沿岸一帯に延長し、幾々二千數百里に互る海面を嚴重監視し、風濤荒れ狂ふ中に、日夜人知れぬ苦闘を克服して無言の威壓を加へつゝ、支那の經濟動脈を遮断して、國民政府の財政に一大打撃を加へ、海上又支那船舶の影を没するに至つた。

支那海軍は、事變發生前巡洋艦九隻、砲艦二八隻、河川砲艦二三隻、其の他を併せて合計一〇六隻、約七萬噸の勢力を有してゐたが、我が海軍の優勢なる兵力に壓倒されて、多くは港灣又は江上深く遁入し、機に機雷敷設防塞工事等江海防備に従事してゐたが、我が海軍は適切なる攻撃を加へ、十月初旬頃迄に概ね其の大半を撃破し、之を壊滅に瀕せしめた。

又南支方面に於ては、我が艦艇を以て廣東、厦門、汕頭、三都澳方面の敵砲臺要地及艦艇を攻撃、多大の損害を與へた。

一方我が海軍航空隊は陸海軍の進撃と呼應して、連日果敢なる爆撃を敢行し、逐次全支要地の軍事施設を爆破すると共に、敵空軍に一大打撃を與へ、又陸海軍部隊當面の敵陣地及後方部隊を爆撃し、作戰の進展を促し、十月下旬迄に概ね敵機三百七十機を屠つた。

八 大上海陥落

斯くて十月二十三日以來の我軍の總攻撃により二十日六日大場鎮の堅陣潰え、江灣の敵も崩れて、二十八日

には一擧蘇州河の線に進出した。  
 十一月五日、陸軍新銳部隊は海軍精銳に掩護せられて杭州灣に奇襲上陸し、「日軍百萬杭州灣上陸」のブド



海陸共同砲撃で起す浦東敵陣地

バルンは青空高く揚げられて敵の心臓を寒からしめた。  
 茲に大上海は全く我が包圍する所となり、浦東及租界に悉く抗日分子も清掃され、上海は十一月十日完全

に我が手中に入つた。トーチカも、クリックも、正義皇軍の前には粉砕突破せられ、蔣介石が難攻不落を誇り、我を國際紛争の渦中におびき寄せて戦闘に外交に有利な地歩を占めんと企圖した計畫もこゝに全く畫餅



最前線に陸海軍部隊の長官的見

に歸して、戦局は爾後首都南京の攻防戦を自指し太湖南北に展開されることとなつた。

九 湖東會戰と湖南戦線の進展

陣地戦を脱して大追撃戦に移つた我軍は勇躍驚異的機動力を發揮して湖東の平野を席捲、南翔、嘉定、

太倉、崑山を屠つて十三日未明には又もや敵の意表に出で陸海協力して揚子江岸白茆より強力なる新兵團の上陸を敢行し、常熟、蘇州方面に潰走する敵の退路を衝き敵を湖東に包圍して殲滅的大打撃を與へた。蘇州、常熟、無錫相次いで落ち、日章旗は長江沿岸を壓して西進した。

太湖南側に於ても嘉興、南潯、湖州、長興等を攻略して湖沼地帯を突破し、山岳地帯に入り山間を縫つて分進を開始した。陸軍戦線の進展につれて、海軍も亦黄浦江、蘇州河等の水路を啓開し、軍需品の補充路を我手に収め、軍の推進を掩護した。

十 南京攻略戦

次いで長江南岸に沿ふ我軍は常州、金壇、丹陽を相次いで陥れ、湖南方面又深陽、廣徳を占據、南京包圍の戦略的基礎體形を整へ、彎を並べて分進する各部隊は鎮江、句容、溧水、水陽鎮、宣城、當塗、蕪湖の各地を攻略した。一方揚子江上敵火に曝されながら連日航行確保に従事しつゝあつた艦船部隊は、機雷、閉塞船、

防塞等各種の障害を排除し又兩岸より阻止する敵を一掃しつゝ、強行南京目指して遡江し、陸海相呼應してひた押しに南京城に迫つた。一方海軍航空隊は、全力を擧げて陸軍航空隊と協力、南京、南昌方面に猛烈なる爆撃を續行、十二月四日には蘇聯の供給にかゝる飛行機集中の報ありし蘭州を襲ふて殆ど之を撃滅した。

十二月八日、棲霞山(南京東北方十八軒)、湯山(南京東方二十軒)、青龍山(南京東方八軒)、方山(南京東南十五軒)、牛首山(南京南方十軒)に互る敵の南京本防禦線を占據し、茲に南京包圍體形を完成して敵の死命を掌中に収めるに至つた。松井軍司令官は、武士の情を以て九日敵將に降伏開城を勸告、十日正午を期し回答を求めた。併し回答の期日は空しく過ぎて、最後の鐵槌的砲火は南京城壁を揺がし、我軍は光華門に纏く一番乗りを敢行して破竹の如く中山門、中華門、水西門を突入した。又海軍遡江部隊主力は遂に下關沖に軍艦旗を翻し陸海呼應して、十三日夕完全に城内の掃蕩を完了した。斯くて皇軍の威風、長江一帯を壓し、日章旗は夕陽に映えて翻翻とはためき、仰ぐ將兵の眼には感激

の涙が光つた。

十二月十七日、中支聖戰四箇月の輝く戦果を此の盛儀に壓縮して歴史的南京入城式が舉行された。朝香宮殿下を始め奉り南京攻略の陸海軍各部隊参加し、松井



海陸合同慰霊祭に参列する朝香宮殿下(右より)松井司令官、谷川司令官、香宮殿下

軍司令官、長谷川司令官を先頭に中山門より國民政府に至る間堂々の威容を以て行進、空には陸海軍航空機の精銳銀翼を連ねて見事の編隊を整へ、閱兵終るや

一同東方遙か皇居を拜し「天皇陛下萬歳」を三唱し、在天の英靈の共に中山門内に來らんことを祈りつゝ此の盛儀を閉ぢた。

事變の將來はどうなるか、事變の結末如何は誰も知らんと欲する大問題であると同時に、何人にも豫斷を許さないと云ふのがその正しい答であらう。併し問題解決の道に就ては堂々正を履んで怖れず、千萬人と雖も吾往かんの大方針が既に決定されてゐる。白く、暴戻支那軍を膺懲し以て抗日政策の抛棄を促し、日滿支共存共榮の實を擧げ東洋永遠の平和を確保する事是れである。

北支中支既に席捲せられ、南京陥落し、國民政府は長江の奥地に分散逃避したる現狀に於て、蔣介石は尙ほ長期抗戰を呼號しつゝある一方、事變を廻る列國の動向亦速に豫斷を許さざるものがある。斯かる時局下に於て新年を迎ふるに當り、吾人は内外の情勢を深く認識し、皇國日本の達成すべき崇高なる目的に鑑み自肅自戒以て一年の計を樹て、之が實行に邁進すべきである。

# 長江三千湮

海軍省海軍事務部

## 第一總説

十二月十三日午後五時我が〇〇艦隊の主力は旗艦〇〇を中心として〇〇〇隻船艦相衛んで抗日の首都南京の表支關下關碼頭に進入した。かくて海上兵力に依る南京への進撃も實現され長江二百浬の水路は確保されるに到つた。此の機會に於て揚子江の概要を説明しようと思ふ。

但し週報第四十九號の「長江を遡る」及第四十五號の「上海の話」と重複するところはなるべく避けることとする。

揚子江は世界第五位、東洋第一の大河で源を西藏高原に發し、中部支那本土を略、東西に貫流し、數多の支流湖沼を合せて東海に注ぐ。流長三、二〇〇浬流域面積七五六、五〇〇平方浬に達し、支那本部の約二分の一、大小汽船の可航水路本流一、五〇〇浬支流六〇〇浬、更に民船を加へた本支流の可航水路は優に一萬浬を超え、舟運の利便世界に冠絶し古來南船北馬の語あるに背かず、實に支那大陸に於ける富源開發の中樞交通貿易の主脈である。

江名の呼稱は地方に依つて異り、水源に於てはドブレチエ河、デイチエ河又はムルニス河の名があり、次で布魯楚河、巴楚河等と呼ばれ、四川省附近に於ては金沙江と謂ひ其の下流を揚子江と呼ぶ。支那に於ては古來長江、大江或は單に江と總稱し、揚子江とは其の一部(江蘇省揚州附近)の名稱に過ぎなかつたが、現時は揚子江なる名が全流の總稱として世界に通つてゐる。通常全流を三段に分ち、江口漢口間を下揚子江、漢口宜昌間を中揚子江、宜昌より上流を上揚子江と稱してゐる。

## 二 水源

週江約一、七〇〇浬の四川省屏山より上流の調査は未だ充分ではなく、支那に於ては最近迄岷江を以て本流となして居た程である。本流金沙江の水源は拉薩の北方なる當拉山脈の北斜面であつて、海拔二萬呎を有し、この水源より屏山迄の間は非常な急流をなし舟運絶無である。

## 三 流域

揚子江の流域は其の面積七五六、五〇〇平方浬で世界第一〇位に位し、青海、四川、雲南、貴州、甘肅、陝西、廣西、湖南、湖北、江西、安徽、江蘇、浙江の十三省に及んでゐる。

支那古代に於ては開化の程度黄河流域に比して一籌を輸したが、近代に至つては遙かに主要の位置を占め、其の地味肥沃、物資豐饒にして氣候温暖、航運自在、しかのみならず人口稠密にして沿江約二億の住民を養ひ、過去十數年の統計に依れば支那に於ける外國貿易額の約六〇%以上は本流域に於て之を占めてゐる。

## 四 勾配

各地の落差に關しては各書に記述したものが各

## 五 江中の泥沙

多少の差違を免れないが、一般に揚子江の平均落差は航行不能區域たる上流一、五七〇浬に於て毎浬九、五呎、可航區域たる屏山下流一六、三〇浬間に於て毎浬〇、五呎となり、江口に近き下流部に於ては毎浬〇、〇三呎に過ぎなからず。

支那に於ける大河の水が殆ど黃濁して居ることは周知の事實である。揚子江に於ける泥沙の大部分は宜昌上流に其の根源を發するものであつて、其の下流に於ても多少の泥沙を生ずるが微量で殆ど影響はない。即ち揚子江中の泥沙の根源は四川省東部の成都平原(面積一〇萬平方浬)である。含有泥沙量は季節に依つて大いに異り、七月に最高となり二月に最低(七月の約五分の一)となる。

此の泥沙に依り揚子江各地の水路は變化し、彎曲部に砂堆を生じ、江口に三角州を形成し、其の海岸線を約六〇年に一浬宛海中に進出せしめて居る。尙黃浦江の黃濁してゐるのは自體の排出泥沙ではなく、其の九五%は揚子江水本流から搬入せらるゝものである。



(日) 英國

▽支那航業會社(太古洋行)

汽船(三〇〇—三〇〇噸)二十一隻で各地を運

航

▽印度支那航業會社(怡和洋行)

汽船(一〇〇〇—四六〇噸)十四隻で各地を運

航

▽亞細亞火油公司 上流のみ、三隻

(イ) 米國

▽捷江公司(Schoon)

汽船(七〇〇噸内外)九隻、上流のみ運航

▽美孚火油公司(スタンダード・オイル・コンパ

ニー)

汽船(三〇〇噸内外)四隻、上流のみ運航

(ロ) 佛國

▽聚福洋行

汽船(五〇〇—一〇〇〇噸)三隻、上流のみ運航

(ホ) 伊國

▽永安航業公司、裕華公司、福星公司、亞東公

司、定遠航業公司、遠東航業公司

汽船合計八隻、上流のみ運航

(ニ) 支那

▽招商局

汽船(三〇〇—四三〇噸)十三隻、各地を運航

▽三北鴻安公司、汽船(五〇〇—一〇〇〇噸)

▽寧紹公司、川江公司、峽江輪

汽船合計四十二隻、小型にして上流のみ運航

三 開港の沿革

一八七一年—一八九五年伊太利人マルコポーロが渡來したのを以て外人來航の嚆矢とするが、近くでは英艦コンツエー號が一八四〇年寧波より北上して揚子江に入り崇明島、吳淞等を経て通州下流迄遊航した。一八四〇—一八四二年の阿片戰爭(第一英支戰爭)に於て英國艦隊は南支沿岸の要港を略した。後揚子江内に侵入、一八四二年七月鎮江を陥れ南京に迫り遂に同年八月支那をして和を講せしめ南京條約が締結さるゝに至つた。けれども英艦隊は單に揚子江下流の知識を得たのみで、江岸の開放にまでは至らず僅かに上海福州等五港の開港のみを以て止んだが、上海が開港の結果外人活動の中心地となり揚子江流域の價值重大なるを感ずる者漸く多きを加へたのである。

次いで一八五六年、ナロー號事件に端を發して第一英支戰爭となり、一八五八年天津條約の結果英國は揚子江に於ける航行權を獲得し、鎮江漢口等を開港せしめた。

一八五八年エルデン卿は其の艦隊を率いて揚子江を遊航、十二月六日漢口に到着した。之れ外國艦隊の漢口入港の最初であつて、其の結果ワード大佐に依て揚子江下流の精細なる水路圖が作製せられたのである。一八六一年に至り英國は重ねて揚子江上流の水路調査隊を派遣し、艦隊の一部は岳州迄遊航、更に同年五月三名の探險家は四川より雲南境の屏山(江口より一七〇〇哩)に到着した。

一八六二年ハリパークス氏等の努力に依り長江通商統共章程を成立せしめ漢口鎮江の外に九江を開港せしめた佛國は、一八五八年天津條約に依り南京を開港せしめた。

一八七六年芝罘條約に依り宜昌蕪湖を開港し、重慶に英國官吏の駐在を許し、更に大通、安慶、湖口、陸溪口、武穴、沙市の諸港を寄航停船地となさしめ一八九〇年には英支追加條約の結果重慶を開港するに至つた。

日本は一八九五年馬關條約に依り沙市を開港場とし重慶を開港し、日本汽船の航路を重慶迄擴張することを締結したのであるが、次いで一八九八年には支那自ら吳淞を開くに至り、一八九九年には岳州を開放し、一九〇二年の英支條約に依り萬縣を豫定開港場とし、一九〇三年我國は長沙の開港を協約し又湘潭及常德は一九〇五年より、萬縣は一九一七年より開港せらるゝに至つた。

四 水先

揚子江の水路は其の變化急激で絶対に圖誌に信頼することが出来ないのでなく、行船操縦には特殊の經驗と要領の會得とが必要である。従つて航江の船舶は總て水先を備入して水路の嚮導に任せしむるのを例とし、四時晝夜を問はず定期航行に従事する汽船と雖も二名乃至四名の水先を常備して居る。上流の水路狹隘で、水流の速い箇所には言令に依て操舵をして居つてはとも間に合はないので、操舵員は唯水先の指の動きのみに依て操舵を行つてゐる。其の極度に緊張した情況は平水の上では想像も

出來ない程である。  
揚子江は水路極めて多岐に互る爲め、數箇の水先區域に區分せられて居る。上流は全部支那水先人の領域であるが、下流には外人支那人及邦人の水先が居り、航路に依り夫々水先協會を組織して居る。

第三 港灣及都市

一 開港場及寄港地

揚子江沿岸には開港場及び其の以外に貨物、旅客、搭載の爲めに設けられた寄港地がある。開港場には領事館及び税關があり又一部の開港場は租界を有して居る。

(イ) 沿岸開港場

開港場名	省名	江口より開港場までの距離(海里)	開港年	人口	租界
南京	同	三〇七	(英)	三〇万	總
鎮江	同	一七〇	(英)	三万	領
吳淞	同	四十二	(英)	三万	領
蘇州	同	一〇四	(英)	七	領
上海	江蘇	〇	(英)	三〇〇万	共同租界
揚子江	同	〇	(英)	三〇〇万	共同租界
鎮江	同	一七〇	(英)	三万	領
南京	同	三〇七	(英)	三〇万	總

開港場名	省名	江口より開港場までの距離(海里)	開港年	人口	租界
浦口	同	一〇二	(英)	一〇万	領
蕪湖	安徽	一〇二	(英)	一〇万	領
九江	江西	一〇二	(英)	一〇万	領
漢口	湖北	一〇二	(英)	一〇万	領
岳州	湖南	一〇二	(英)	一〇万	領
長沙	同	一〇二	(英)	一〇万	領
沙市	湖北	一〇二	(英)	一〇万	領
宜昌	同	一〇二	(英)	一〇万	領
萬縣	四川	一〇二	(英)	一〇万	領
重慶	同	一〇二	(英)	一〇万	領

(ロ) 旅客又は貨物用寄港地  
通州、江陰、泰興、儀徵(以上江蘇)、荊港、大通、安慶(以上安徽)、華陽、湖口(以上江西)、武穴、蕪州、黄石港、貴州、陳漢口、新堤、益利(以上湖北)、蘆林潭、湘陰、常德、湘潭、靖港(以上湖南)  
二 主要都市  
上海(週報第四十五號参照)

通州

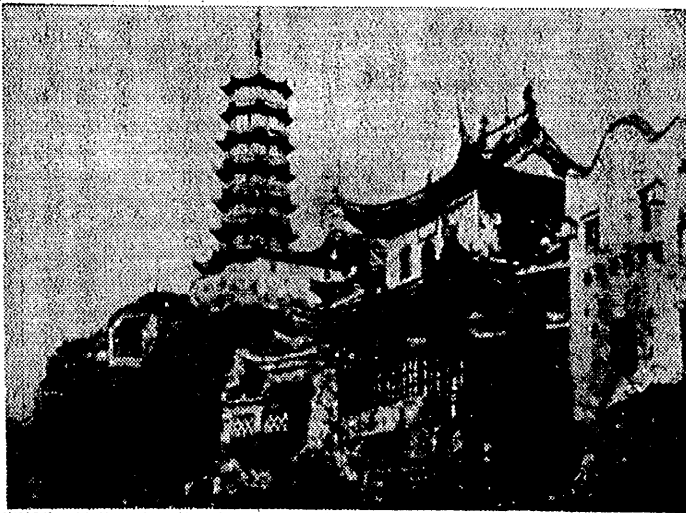
支那の近代都市として有名である。周代(紀元前三五〇年)の築城に係る縣城であるが、近代の財政家として有名な張謇(第二の禹王と稱せらる、民國十六年歿)の努力に依り教育及社會事業に文化的施設の成果を見るに至り、近代的大工業起り紡績、榨油、製粉等が盛に行はれてゐる。水陸の交通至便、税關は沿岸上流數哩の天生港にある。附近の通州水道は下揚子江に於ける有名な狭水道である。

江陰

四周に山を環らし古來揚子江第一の險要と稱せられてゐる。江岸に連る黄山、東山、西山及び鷲山には砲臺を有し江を俯瞰する。往古は縣城として繁榮したが長髮賊の亂以後衰微した。米を産する。

鎮江

有名なる大運河と揚子江との交點に位し、古來水路交通の要點となつてゐる。一八四二年六月英國艦隊が之を占領した爲め清朝の苦痛甚だしく第一英支戰爭講和の主因となつた。長髮賊の亂には



金山寺(江)

數箇年の間（一八五三—一八五七）賊徒の手中に在り全市焦土と化したと言はれる。近來交通の發達と共に鎮江の生命たる大運河の價值を減じ、従つて其の貿易は衰微しつゝある。

附近には北固山甘露寺等の名所がある。甘露寺は唐代の創建に係り梁の武帝の筆「天下第一江山」の額がある。我が遣唐使阿部仲麻呂曾遊の地である。

南京（週報第四十九號参照）

安徽省唯一の開港場で運河に依つて米の集散地たる蕪湖府に通じ、更に茶の名産地たる太平縣を控へ、之等の輸出が多い。十七世紀中迄此の地は江中の一島嶼であつたと云ふ。往古元軍十餘萬が江上を東航せんとせる時（二二八〇頃）南宋の將賈似道が此の地に邀へ一舉に之を潰亂大敗せしめた古戰場である。長髮賊の亂の際は十年（一八五三—一八六二年）の久しきに亘り賊の手中にあり荒廢を極めたが、一八七〇年開港後次第に發展して今日に至つた。附近に李鴻章の別墅の跡であつた李家花園と稱する名所がある。

安慶

春秋皖國の都で安徽省の首府、壯麗なる八層塔がある。英清改訂條約に基き開港の筈であるが未だ開港場とならず、穀物を産し一八七六年より寄港地となる。

湖口

清代湖口水師總兵の駐した所、現に支那海軍の軍港となつてゐる。往時は繁榮したが九江開港後衰微し昔日の偉はない。

九江

江西省の北隅に在り古來揚子江流域に於ける要地として名高い。一八五三年乃至一八五八年長髮賊に占領せられて其の居城となる。一八六一年開港、一九二七年英租界を回收した。有名なる九江燒を始め麻茶の集散地である。南方一五哩に有名なる蘆山があり、又此處より南方八一哩の南昌との間に邦人出資の南潯鐵道が通じてゐる。

武穴

支那第一の麻の産地であり岩鹽をも産するが市況は餘り振はない。一八七六年寄港地となる。

大冶

有名なる大冶鐵山は江岸石灰窑より南方約一八哩にあり、鐵道に依つて連絡して居る。石灰窑には我が大冶駐在所棧橋及熔鐵爐がある。

大冶鐵山は往昔隋唐の時代より採鑛されたと云はれ、一八九〇年開鑛、一九〇六年漢冶萍公司成立、八幡製鐵所と賣買契約をなし、一九一五年所謂二十一箇條條約に依り確實に我が利權となつた。揚子江流域に於ける我が最大権益の一である。

黄石港

石灰窑の上流二哩半にある寄港地にして民船貿易の中心地であり南方象鼻山鐵山との間に鐵道を通じてゐる。

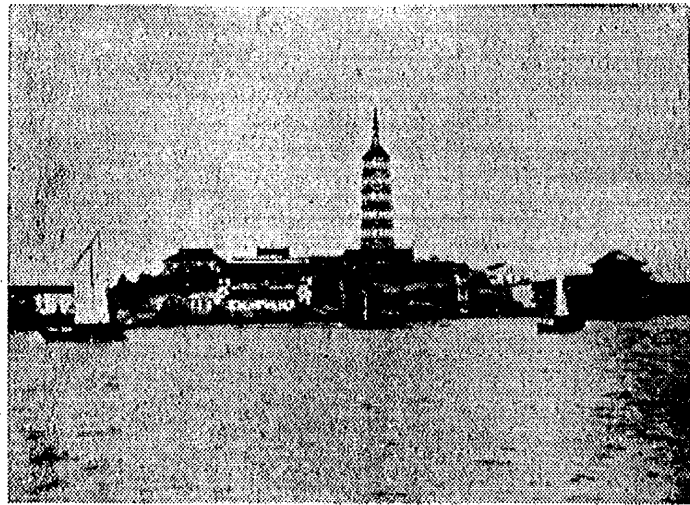
漢口

（週報第四十九號参照）

江を隔て漢口の對岸にある政治軍事及び文教の中心地で吳の孫權の創建にかゝる。名勝黃鶴樓がある。

漢陽

新興の工業都市で、漢冶萍公司鐵廠、兵工廠及



塔の慶安



岳州

火藥廠等がある。

岳州とは岳州府城及び其北方五渚にある城陵磯(人口五千)を併稱するもので、揚子江と洞庭湖及び長沙方面との會合點に位し、古來軍事上の重要地點として著名である。一八五二年長髮賊の兵火を蒙り、一八六一年漢口より英艦始めて來航、一八九九年開港場となつた。商業上の價値に乏しく單に湖南に通ずる水路の關門たるに過ぎないが、有名なる岳陽樓を有し、君山を前に望む等名勝に富んで居る。

岳陽樓は市内江岸にあり、三國吳の大宰相魯肅の建造に係り、清代(一九〇年前)改築せられたもので唐代(二、一〇〇年前)諸才士集つて詩を賦して以來其の名が顯るゝに至つた。

長沙

湖南省の首府にして湘江に臨み一九〇四年開港場となつた。風光明媚にして且つ天惠豊富なる湖南の門戸をなしてゐる。古來多數の偉人傑士を輩

沙市

出し由緒深き歴史を有し、近代工業文化發達し又思想的に進歩せる都市で、排日思想風に旺盛なるを以て名高い。一九三一年我が伏見の所謂六事事件があり、一九三〇年には共匪の爲め一時占領せられたことがある。對岸の岳麓山は支那五岳の一たる南岳衡山七十二峯の一つであつて、朱子の講學せる岳麓書院、革命の志士黃興及蔡鍔の墓、晋代(一、五〇〇年前)の建築に係る萬壽寺等名勝舊蹟甚だ豊富である。

昔時より荊州(北方二渚)の外港であり、清末(八〇年前)に於ては四川貿易の終點として黄金時代を現出したが、開港(一八九六年)の翌年宜昌の開港に遭ひ爲に其の後衰微した。我が專管租界は形勝の位置にあるが目下荒廢に任せてある。

荊州は三國時代に關羽の築城に係り、清代には政治の中心地であつたが、一九一一年の革命に於て滿洲旗軍萬餘を虐殺せる慘劇が行はれたことがあり、今尙寂寥たる一縣城である。有名なる關帝廟

宜昌

があり、關羽の使用せる馬槽を保存し關羽五十九世の後裔が廟を守つて居る。

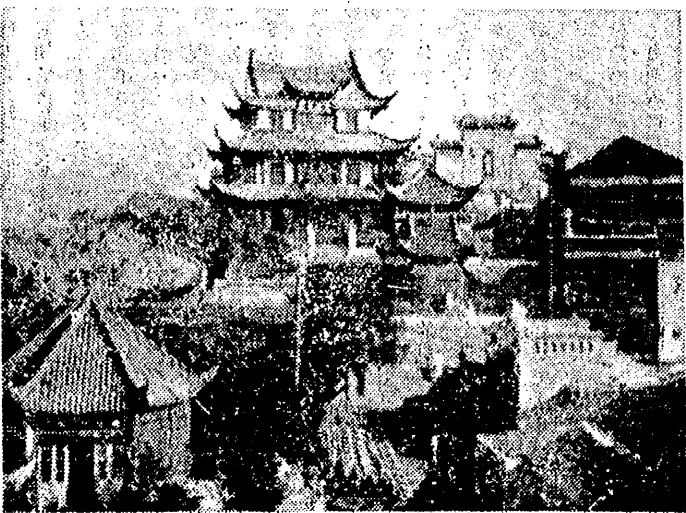
湖北省の西部江の北岸にあり、四周山を以て圍まれ四川に入る要衝に當つて居る。宜昌には他の都市に於けるが如き大道路殆どなく、最近稍其の面目を改めたとは云ひながら極めて舊式狹隘な川谷町の域を脱しない。

阿片稅收莫大で、軍閥爭奪の地として古來屢兵變に際會して居る。一八九七年開港、我が領事館があり、下流一〇渚には虎牙峽、上流には有名な三峽の險が連つてゐる。

萬縣

往古は一寒村に過ぎなかつたが今や峽江中唯一の大市となり、水陸交通の中心地にして商業股盛である。従て四川軍閥の爭奪目標とされて居る。

一九二六年所謂萬縣慘案が行はれ英砲艦に死傷者を生じたところ、市街は低水面上約一〇〇呎の斷崖上に在り、他處では見られぬ特異な情景を呈



(昌武) 址樓鶴黃

してゐる。市街の北端に天生城と稱する城塞がある。温泉と周年涸渴せぬ池があり、主として富貴階級の家族より成る約二、〇〇〇の住民が居る。動亂時の避難場所である。天成橋(天然石の橋)及太白巖(李太白讀書の跡)等の名勝がある。

重慶

揚子江と嘉陵江との會流點なる突出部に位し、海拔六二六呎、江用艦船邇江の終點である。北東南の三方は江に面し、西方のみ僅かに陸地に依り成都に通じ、嘉陵江を隔て、江北縣城に對してゐる。四川の門戸であり、商業の中心をなし市況繁盛である。一八七六年芝罘條約に依り開港、日本租界及び我が領事館がある。

三名所舊蹟

大運河

萬里の長城と並稱せられる古代支那の大工事の一で隋の煬帝の開いたものである(六〇五年)。鎮江の上流二涇の地點より長安都に達し長さ二、五〇〇涇、世界最長の運河として有名であるが、河

幅狭く水淺くして僅かに民船を通ずるのみで現在に於ては運河たるの價値に乏しい。

揚州

揚子江より大運河を北上すること八涇の位置にある。往時吳の首都となり、後に隋の煬帝が江都宮を設けたところで、一二八五年マルコポーロ渡來の遺跡がある。史上有名な美人の多く生れたる地で風光亦賞すべきものがある。現在は淮鹽及江蘇米の大集散地である。

馬營鎮

九江の下流四〇涇にある。昔大禹が江水を治するに當り江中に突出せる脚角を削つて一面の懸崖とし北岸の連田を洪水より救つたところで、現在長江四大要塞の一となつて居る。

蘇東坡の赤壁

大冶の上流二五涇、漢口の下流五〇涇にある。宋の大儒蘇東坡が屢々舟を浮べて樂んだところであり、彼の作たる赤壁賦は我が國に於てもよく人口に膾炙して居る。

陽羅

漢口の下流一五涇にある小邑で、元の開慶元年有名な忽必烈が宋を討つべく大軍を渡江せしめた要津である。

曹操の赤壁

三國の世(一、七〇〇餘年前)吳の青年總帥周瑜が南東風に乗じ火攻の計を以て大に魏の曹操を破れる古戰場で、山上に諸葛孔明の祭風臺があり、崖上に蘇東坡の筆に成る赤壁の二大字を刻んである外、蘆葦徒に繁茂するのみで何等當時を偲ぶべき蹟は存して居ない。

雲澤夢澤

洞庭湖の附近(漢口上流一五〇涇乃至二五〇涇)江の西岸にある盆地を形成する大平原で、北にあるを雲澤、南を夢澤と云ふ。太古は沼澤の地であつたが、現在は僅かに其の跡を洞庭湖に止め他は地味肥沃農作物豐饒の地域となり、住民皆富めりと稱せられて居る。最近屢々共匪の襲ふところとなる。この邊は江の水路極めて曲折に富み且つ其

の變化が急激で中揚子江中の難關とせられ、其中で變化の最も著しいものを黃奚曲路と云ふ。

洞庭湖

漢口上流一四〇涇にある支那第一の大湖で、東西七五涇南北六五涇面積二、〇〇〇方涇である。古來其の風光を以て聞え、文士墨客の來遊する者多く盛に詩歌に謳はれてゐる。我が國近江八景は洞庭湖の瀟湘八景を模したものである。

三峽の險

宜昌より其の上流夔州に至る間一〇涇に互る宜昌、巫山及夔州の三峽の總稱であつて、江岸は高山峻嶒縦横に起伏して江流は峭立せる斷崖絶壁の間を流れ、あたかも南畫の山水を見るが如き風景である。従て江幅狭く水流速く加ふるに險岩難堆隨所に横はり、航行の危険至大である。

(イ) 宜昌峽

宜昌の上流五涇にある峽門口より約一五涇の間を謂ふ。蘇東坡兄弟三人會遊の地。

(ロ) 巫山峽

宜昌の上流六七湍の火焔石より巫山下流一湍の空壁陀に至る二〇湍を謂ひ、風光絶佳である。鏡



巫山峽

棺峽、布袋口、埤名、神女廟、巫山十二峯及孔明碑の名勝がある。

(一) 風箱峽

三峽の險中最上流即樂州(宜昌の上流二〇湍)より下流約一〇湍の間を謂ふ。斷崖數千丈、峻峯兩岸に屹立して天に沖し、船は宛然壑底に在るが如くである。絶壁の間に禹鑿と稱する斧痕の如きもの(四、〇〇〇年の昔大禹治水の跡も傳へらる)又綽綽として斷崖に一條の小道を通じたもの等がある。兩岸が壁立して居る爲め峽中雲が多く常に風がある。清代(一八三三年)李本忠なる者數萬兩を支出して水路を平定ならしめたと傳へられて居る。峽中に風箱、白帝城、孔明八陣圖等の名勝がある。

昭和十二年の國際政局回顧(上)

外務省情報部

1. はしがき

昭和十二年の國際事情は、極東に於ては前年末に於て國交調整交渉の決裂を見た日支關係が、西安事變に於て國民政府と共産黨との間に妥協成立して以來、抗日の氣勢高まると共に俄然悪化し遂に蘆溝橋事變の勃發を見るに至り、又日蘇關係に於ては漁業問題の紛糾、邦人壓迫事件等相次いで起り、日蘇間の空氣は依然圓滿を缺いてゐたが、滿蘇國境に於ける蘇聯邦側の不法侵入の結果は乾念子事件の發生を見るに至つた。而も蘆溝橋事件は支那側の挑發抗戰によつて、全面的な日支兩軍の衝突にまで擴大發展し、之に伴つて支那を繞る列強諸國との外交關係は頗る複雑微妙となり、聯盟會議、九國條約國會議等、種々なる波瀾を生ずるに至つた。

である。

歐洲に於ては、前年から持ち越されたスペイン問題を繞つて、英佛蘇對獨伊の對立は愈々深刻となり、地中海問題の紛糾を見る等、重大な情勢を生じたのであつたが、フランコ軍が漸次優勢を示すに及んで、各國のフランコ政權承認となり、スペイン問題もやうやく終末に近づいたのである。尙ほ、スペイン問題及び獨伊ベルリンローマ樞軸の強化等に依つて危機に瀕せる歐洲平和の再建運動が、英佛を中心として行はれたが、イタリーの日獨防共協定への参加及び聯盟脱退によつて、歐洲の國際政局は益々波瀾を生ぜんとして居るのである。

2. 支那事變の發展

七月七日、北京郊外蘆溝橋に於て勃發した支

那第二十九軍の不法射擊事件は、多年國民政府及び共產黨の指導の下に養成され来たところの抗日意識の爆發であつた。而して蘆溝橋事件の善後措置、事態の收拾に對して帝國政府は専ら事件の不擴大、現地解決に努力したのであるが、支那側の挑戦不信行為は帝國政府の此の解決策を不可能ならしめ、北支に於ける戦局は漸次擴大し、而も全支に互る抗日の激化は在留邦人の全面的引揚げを餘儀なくせしめるに至つた。

然るに八月九日、上海に於て大山大尉殺害事件が勃發するに及び、豫ねて前回の上海事變に於ける停戰協定を無視して配備せられて居た優勢なる支那軍は、上海租界を包圍して築造せられて居た堅固なる陣地を根據として、我が陸戦隊の警備の手薄に乗じて租界奪回を企圖し、猛烈な襲撃を試みたのであつた。茲に於て、帝國政府も在留邦人の生命財産保護の爲に斷乎増兵に決すると共に、全支に於ける抗日聲浪の爲、皇軍は果敢なる軍事行動を開始するに至つた。

斯くて北支に於ては京綏、京漢、津浦の三線に沿うて進撃を開始せる皇軍は、至るところに於て大勝を博し、十月末には早くも黄河以北を大略平定したのであるが、一方上海方面に於ても十月末上海を陥れ、更に長驅して十二月十三日には遂に首都南京を攻略したのであつた。而も皇軍の占據によつて抗日勢力の一掃せられた各地に於ては、續々として治安維持會等の成立を見、やがて察哈爾及び綏遠に於ては蒙古自治共和政府が成立し、又北京に於ては中國臨時政府の誕生をさへ見るに至り、何れも國民政府と分離して、抗日なき赤化なき平和郷建設へと向つて復興の歩を進めつゝあるのである。

而して戦局の發展に伴つて、支那を繞る各國の動きは頗る複雑を極め、蘇支不侵略條約の締結を初め英蘇の支那援助が頻に傳へられ、爲に日蘇、日英間の空氣は頗る悪化し、又パネー號事件及び英艦砲撃事件、英大使負傷事件等の偶發的事件の發生に依つて、日米、日英間に困難な外交問題を惹起する等、支那事變を繞る國際關係は種々波瀾を見せて居るのである。

3. 聯盟及び九國會議と列國の動向

支那事變起るや、國民政府は凡ゆる手段を盡して列國の援助を懇願し、第三國の調停干渉を誘致すべく狂奔したが、九月に至り豫ねて傳へられて居た様に、國際聯盟に對して提訴した。聯盟は直ちに之を取り上げて二十三國委員會に附議し、帝國に對して参加を招請したが、勿論帝國は参加を拒絶した。茲に於て聯盟會議は日本に對し九國條約及び不戰條約違反の決議を採擇し、九國條約關係國會議召集を決議したのである。

而も此の聯盟總會の決議に相呼應して、米國大統領は日本に對する非難的演説を試み、國務省は九國條約及び不戰條約違反を斷定した聲明書を發表した。茲に於て九國條約會議への英米共同工作が行はれ、十月末、白蘭ツラッセルに於て九國條約關係國會議が召集されることとなり、帝國に對しても招請を發したのであるが、帝國政府の再度の拒絶に依つて會議は無意味となり、而もドイツの出席拒絶及びイタリーの日

本支持等の爲會議は全然迫力を缺き、結局各國の責任回避の態度に依つて會議は全く混亂に陥り、有耶無耶の裡に消滅してしまつたのである。

聯盟及び九國會議に於ける経緯に見られる如く、支那事變に對する列國の態度は、六年前の滿洲事變の當時に比して全く隔世の感があり、如何に國際情勢が其の後急激なる變化を來して居るか、窺はれる。

即ち、滿洲事變の當時には、米國が對日干渉の先鋒であり、英國が消極的な態度を示して居り、獨伊の兩國も二十三國委員會の一員として對日決議に参加して居たのであつた。然るに今次の事變に於ては、米國は嚴正なる中立政策を堅持し、英國が對日干渉の主動者たるが如き態度を示して居るのであり、獨伊兩國は絶對的に日本を支持して居る。

即ち米國は、事變の當初ハル國務長官の聲明に於て日支事件に無關心たるを得ないとの意向を表明したが、英國の對日共同調停工作に對しては之に加擔しなかつたのである。而も國內に



中立法適用を要求する聲が盛であるにも拘らず、政府は嚴として中立政策を維持し、飽く迄も日支紛争に捲き込まれることを避けんとして居り、聯盟會議の對日決議に呼應して九國條約國會議への積極的態度を示したが、忽ちにして中立維持に復歸し、依然として紛争不介入の態度を續けて居るのである。パネー號事件に就ても、英米共同の對日示威に對して極めて冷淡なる態度を示して居ると報ぜられて居る。

英國は事件の當初日支兩國に對して調停的の意向を表明したのであつたが、帝國が第三國介入拒絶の態度を明らかにしたので、更に米國を初め各國を誘つて對日共同工作を企圖し、聯盟會議及び九國會議を指導したが、聯盟會議及び九國會議共に失敗に歸し、對日共同工作の企圖は全く裏切られるに至つた。併し、英國の政策は依然として英米提携、列國共同工作に在り、パネー號事件並びに英艦砲撃事件が起るに及んで、忽ち英米提携對日共同示威の工作が進められつゝあることが報ぜられて居る。

蘇聯邦の支那支持は、蔣介石の長期抗日作戰、

國共合作の強化等に依つても窺はれ、更に蘇支不侵略條約の發表に依つてそれが裏書きされるものであること、既に周知の通りである。尙ほ獨伊の對日支持は別として、佛國其の他の各國は大體に於て支那に對する利害の厚薄に應じて、又英米蘇獨伊等の列強との關係に従つて、夫々の態度を示して居るのであるが、何れも日支紛争に介入することを避けんとして居ることが窺はれるのである。

4. 日獨伊三國協定の成立

十一月六日、恰もブラッセルに於て九國條約國會議の最中、突如として發表された日獨伊三國防共協定の成立は、世界の外交界に大なる衝撃を與へたのであつた。此の三國協定は、一昨年十一月二十五日に締結された日獨防共協定にイタリが原締結國として加盟したものであつて、之に依つて歐洲亞細亞を貫く大防共陣が完成せられ、コミンテルンの赤化工作に對し、又人民戰線派の反日獨伊工作に對して、非常な威力を示すものと云はねばならぬ。

而もスペイン動亂がコミンテルンの赤化工作の一つの現はれであることが、それが今日歐洲の大問題にまで發展した理由であるが、更に支那事變が同じくコミンテルンの東亞擾亂工作に基くものなることが既に常識化された事柄である以上、東西兩大陸に跨る日獨伊三國の防共協定は、當然此の二つの赤化動亂に對する三國工作の提携を意味するものに外ならないのであつて、茲に三國協定の重大なる意義があり、各國に衝撃を與へた所以があるのである。

而して三國協定成立の結果として現はれたものが帝國のフランコ政權の承認であり、滿洲國とフランコ政權との相互承認であり、更にイタリーの國際聯盟脱退であつた。即ち帝國政府は十二月一日を以て、フランコ政權をスペイン國の正式政府として承認し、又滿洲國とフランコ政權とは、十二月二日相互承認を交換した。次いでイタリーは十二月十一日正式に國際聯盟脱退を發表して、滿洲事變に於ける日本及び再軍備問題に對するドイツと同様に、エチオピア問題に關する對聯盟關係の矛盾を清算したので

あつた。

5. 乾谷子事件と漁業條約問題

滿蘇國境に於ける蘇聯邦側の越境侵入其の他の不法事件は最近に至つて益々増加し、國境問題の重大化が傳へられたのであるが、六月十九日以來、黑龍江の黑河下流の滿洲國領の乾谷子島及び金阿穆河島に蘇軍が不法に越境侵入し來り、陣地を構築し初めたので、同島附近の警備に當つて居た日滿軍は之を阻止する爲に蘇軍に反撃を加へ、遂に蘇艦艇を撃沈するに至つた。併し乍ら當時蘇聯邦内部が赤軍清掃事件の爲不安動搖の渦中であつた故か、砲艦撃沈によつて一時緊張を見せた乾谷子事件も、蘇軍の撤退により事なきを得たのである。

而も其の後旬日を出でずして蘆溝橋事件が勃發し、遂に支那事變の展開を見るに至つたのであるが、蘇聯邦の支那支持に由つて日蘇關係は益々惡化の傾向を辿り、滿蘇國境に於ける紛争衝突は日滿軍の嚴重な警戒に依つて其の後影を潜めた模様であるが、浦潮或は北極太を初めとし

# 國際經濟週報

創刊大正九年

每木曜日發行

## 新年增大號

### 恐慌と戦争に怯ゆる世界經濟

米 プームから反動へ  
英 軍事豫算の急増と一般的反動  
佛 諸指標の好轉と矛盾の激化  
獨 第二次四ヶ年計畫下のドイツ經濟  
伊 東阿戰後の經營は順調  
支 轉換期の支那經濟  
蘇 第二次五ヶ年計畫の終了と肅清事件  
蘇聯最初の總選舉を曝く

## 同盟旬報

同盟通信社蒐集の内外ニュースを整理  
統制せるニュース専門雜誌  
【互に面替り 定額一冊廿五圓】

定 一冊 廿五圓  
一年分前納 十二圓五七錢

東京市橋區 同盟通信社 電話 電報 番一五三一(57) 東京市橋區 電話 電報 番〇〇五八

露光量違いにより重複撮影

て、全蘇に互る邦人虐待事件等は愈々酷烈となり、全面的な反日態度は益々露骨化して來たのである。

更に漁業條約問題に關しては、一昨年末既に基本條約に就きモスコウ政府との間に成案を得て調印を俟つばかりの状態であつたにも拘らず、蘇聯は日獨防共協定の發表と共に全然其の態度を一變し、調印を回避するに至つた。仍て我が政府は蘇聯側と折衝の結果應急の便法として、既存條約の效力を一箇年間延長することとし、辛くも一時を糊塗したのである。

本年に入るや、帝國政府は直ちに改訂條約に關する交渉を開始したが、モスコウ政府は種々の口實を構へて交渉の促進を回避し、暫定取極めの期間の盡きんとする年末に迫るも依然として交渉を遷延せしめんとするが如き極めて誠意なき態度を示しつつある。之に對し外務省は蘇に其の經過を發表してモスコウ政府の反省を促すところがあつたが、斯くの如き事態は日蘇間の空氣を益々險惡に導く所以であつて、甚だ遺憾とせざるを得ないのである。

而も上述の如く、支那事變に於ける蔣介石の長期抗日作戰に關連して、國共合作の強化、蘇聯邦の支那援助の積極化が頻々と傳へられつつある事實等に鑑み、更にスペイン人民戰線派援助の打ち切りは、蘇聯の極東に對する關心の増加に因り飛行機、飛行士等の供給を不可能ならしめたといふ理由に基くものであると報ぜられて居ること等と對照して見れば、今後に於ける蘇聯邦の動向は、頗る注目すべきものと謂はなければならぬ。



週

報

昭和十三年十一月五日 第一〇〇〇號  
（毎週一回水曜日發行）

（毎週一回水曜日發行）

第六十四號

（本書の大きさは規定規格局判）

週報

昭和十三年一月五日印刷發行

編輯者 内閣情報部

印刷者 内閣印刷局

發行所 東京市麹町區永田町  
内閣總理大臣官舎内  
東京市麹町區大手町

所 送 申	價 定
内閣印刷局發行課 電話九ノ内(23)三五一一九 振替東京一九〇〇番	一ヶ月部 一圓四十錢 （外埠郵便に依る地は三圓四十錢） 要料送
全國各地官報販賣所 東都書籍株式會社 東京市神田區錦旗町一ノ三 振替東京九三九〇番	一ヶ月分未滿配送御希望の方は一 部五錢の割合を以て前金を添へ御 申込み下さい。
最寄書店・驛賣店	